

試験種類 (どちらかに○をつけてください)	科 目	学 部	学 科	専攻・コース
公募制・卒業生子女	小論文	家政学部	児童学科	—
受験番号	氏 名			採 点

問1 以下は、「令和4年度 児童相談所における児童虐待相談対応件数（速報値）」のデータの一部である。図1は「児童相談所における虐待相談対応件数とその推移」、図2は「児童相談所における虐待相談の内容別件数の推移」をもとに、作成したグラフである。2つの図から、読み取れることを書きなさい。（400字程度）

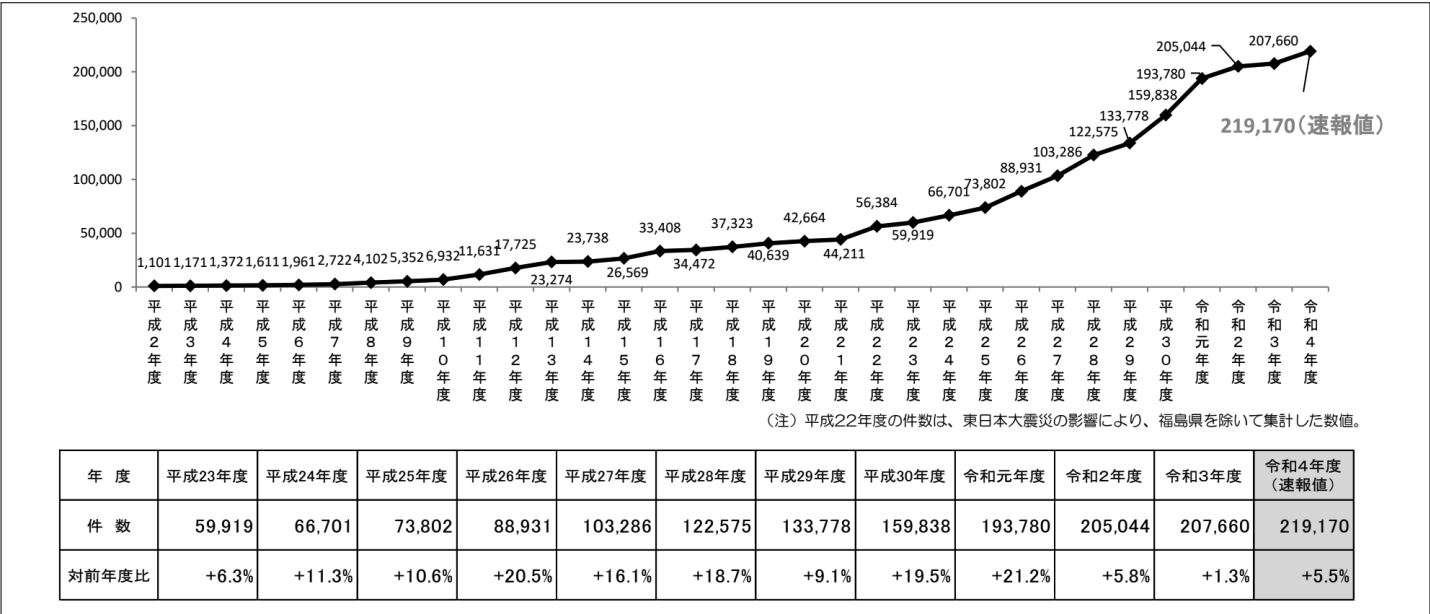


図1 「児童相談所における虐待相談対応件数とその推移」

(出典) 厚生労働省 「令和4年度 児童相談所における児童虐待相談対応件数（速報値）」

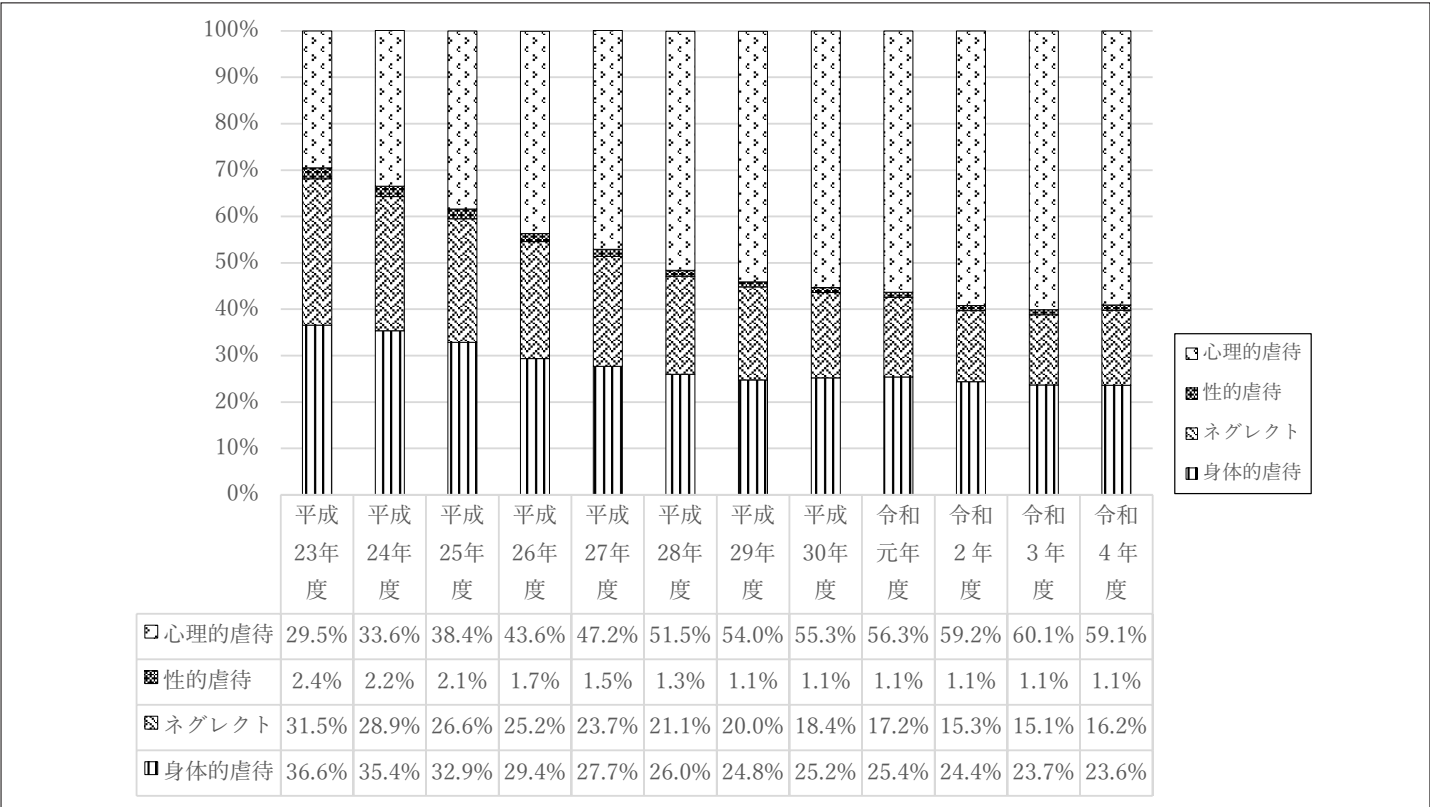


図2 児童相談所における虐待相談の内容別割合の推移（％）

(出典) 厚生労働省 「児童相談所における虐待相談の内容別件数の推移」より作成

- 心理的虐待 → 言葉による脅し、無視、きょうだい間での差別的扱い、きょうだいに虐待行為を行う など
- 性的虐待 → 子どもへの性的行為、性的行為を見せる、ポルノグラフィの被写体にする など
- ネグレクト → 家に閉じ込める、食事を与えない、ひどく不潔にする、重い病気になっても病院に連れて行かない など
- 身体的虐待 → 殴る、蹴る、叩く、投げ落とす、激しく揺さぶる、やけどを負わせる など

試験種類 (どちらかに○をつけてください)	科 目	学 部	学 科	専攻・コース
公募制・卒業生子女	小論文	家政学部	児童学科	—
受験番号	氏 名			採 点

問2 下記の文章を読んで、あなたが保育・教育者となる際、子どもとどのようにかわりますか。具体的に書きなさい（600字程度）

傷つく子どもの脳

その脳が、過度なストレスによって“物理的”に傷つくということをご存じでしょうか。

わたしは30年近く小児精神科医として子どもの発達に関する臨床研究を続けてきました。大人の不適切なかかわりによって、子どもの脳が変形するということが、長年のリサーチから明らかになってきたのです。

生まれたときはわずか300グラムしかない人間の脳は、ゆっくりと成長し、時間をかけて生きるすべを習得していきます。その発達過程において、脳には外部からの影響を受けやすい、非常に大事な時期があります。胎児期、乳幼児期、思春期です。こうした人生の初期段階に、親や養育者といった身近な存在から適切なケアと愛情を受けることが、脳の健全な発達には必要不可欠です。

しかし、この時期に極度のストレスを感じると、子どものデリケートな脳は、その苦しみになんとか適応しようとして、自ら変形してしまうのです。生き延びるための防衛反応だともいえます。これは悲しく、そして驚くべき事実です。

その結果、脳の機能にも影響がおよび、子どもの正常な発達が損なわれ、生涯にわたって影響をおよぼしていきます。

たとえば衝動性が高く、キレやすくなって周囲の人たちに乱暴をはたいたり、非行に走ったりする場合があります。あるいは、喜びや達成感を味わう機能が弱くなるせいで、より刺激の強い快楽を求めるようになり、アルコールや薬物に依存することもあります。

子ども時代に愛され、褒められる経験が少なかった人たちは、自己肯定感や自立をつかさどる機能がうまくはたらかず、抑うつ状態になったり、自傷行為を繰り返すこともあります。

こうした症状は、子どものころから断続的に現れるケースもありますが、つらい体験から時間が経過したあとで急に出現する場合も少なくありません。成人して仕事を始めたとき、あるいは家庭をもったときに発症すれば、自分だけでなく、周囲の人たちも苦しめることになります。これは、安心と安全が確保された場所で子ども時代を過ごしていた人ならば、決して味わうことのない苦痛です。

精神的マルトリートメント*1とは

ネグレクトと並んで軽視されてしまいがちなのが、心理的・精神的なマルトリートメントです。

警察庁生活安全局少年課の調べによると、平成28年、児童相談所に通告のあった5万4227人の虐待被害児童のうち、「心理的虐待」として報告のあった件数は、3万7183件で、全体の68.6%。身体的虐待の1万1165件（20.6%）と比べてもかなり比率が高く、ゆうに半数を超えています（「平成28年における少年非行、児童虐待及び児童の性的搾取等の状況について」平成29年3月発表）。

たとえば児童相談所からわたしの診療室に連れてこられたある女の子は、かわいい名前があるにもかかわらず、親から「ゴミ」と呼ばれていました。このままでは健全な発達ができるとは到底思えない状況でした。

心理的なマルトリートメントとは、このようにところに外傷を与え、ところを侵害するような行為のことです。「バカだ」、「クズだ」などと蔑む、差別や脅し、罵倒を繰り返すなど、「言葉」による行為が多いため、英語では「バーバル・アブユース（verbal abuse）」とも呼ばれます。

「お前なんか生まれてこなければよかった」、「あんたがいなかったら、結婚もしなかったし、こんなに苦労もしなかったのに」、「本当に何をやらせてもダメだ、死んだほうがマシだ」といった、子どもの存在そのものを否定するような言葉も多く聞かれます。ここまでの暴言ではないにせよ、罵るような言葉をつい口にしてしまった、というのはよくあることでしょう。

きょうだいを比較しすぎるようなことでも、子どもは傷つきます。たとえば兄の成績を引き合いにして弟にダメ出しをする、親戚の前で妹ばかり褒めて姉のことは無視するというのも、状況や程度によってはマルトリートメントにあたります。

さらに、自分に向けられた言葉でなくても、子どものところを傷つけることがあります。母親が父親をひどく中傷したり（またはその逆の場合もあるでしょう）、祖父母が両親の悪口を言ったりするのを聞くと、子どもは大好きな母親（あるいは父親）が、いやしめられることで悲しむだけでなく、血のつながりを悲観し、自分まで否定された気になるのです。

* 1 「マルトリートメント」……強者である大人から、弱者である子どもへの不適切なかかわり方

* 出題者が、本文の漢数字を算用数字に変更して示している。

（出典：友田明美（2017）『子どもの脳を傷つける親たち』NHK 出版 pp11-12、pp52-54）

試験種類 (どちらかに○をつけてください)	科 目	学 部	学 科	専攻・コース
公募制・卒業生子女	小論文	家政学部	児童学科	—
受験番号	氏 名			採 点

問2

	100字
	200字
	300字
	400字
	500字
	600字
	700字

(25×28)